

天空の滝

川の途中の落差によって生じる滝。勢いよく流れ落ちる光景は見ていて飽きない。特に夏の暑い日に森林浴を通り抜け、滝に出会った時の感動はこれまで何度も味わった。滝周辺に立つと落下する飛沫のマイナスに帯電した空気イオンで気分は爽快だ。

一般的に滝は川の上流にあることが多く、都会で暮らしていると普段見ることは無い。しかし不思議なことに滝というだけで名所になってしまう。これまで私が見た滝はさほど多くはないが、日光の「華厳の滝」静岡の「白糸の滝」大阪の「箕面の滝」神戸の「布引の滝」などがある。これら滝にも様々な形があるようだ。直瀑は滝壺に向かって一直線に流れ落ちる豪快なイメージがある。その他、段瀑、分岐瀑、溪流瀑、潜流瀑、海岸瀑などがある。

日本三名瀑といわれるものがある。日光の「華厳の滝」（中禅寺湖から流れ落ちる高さ 97m）、和歌山県熊野「那智の滝」（高さ 133m 水量共に日本一）、茨城県太子町「袋田の滝」（高さ 120m 幅 73m で大岩壁を四段に流れる）。一方世界の三大瀑布はアルゼンチン、ブラジルにまたがる「イグアスの滝」、アフリカのジンバブエとザンビアにまたがる「ヴィクトリアの滝」、そしてアメリカとカナダにまたがる「ナイアガラの滝」だ。



鳥取県智頭町芦津の里は山深い人里離れた自然豊かな地であった。屈曲した山峽を北股川の清流が絶えることなく流れ続ける。そんな場所に山菜料理の美味しい店があった。そこはまるでパラダイスのように思えた。園内に藁ぶき屋根の古民家をはじめいくつもの自然にマッチした館があり、せせらぎが聞こえる川床の座敷もある。そしてすぐ横には天空から舞い落ちる滝が爽やかな流れを見せてくれる。これが「天空の滝」だ。滝を力強い男性とひとやかな女性に例えるのであれば天空の滝は女性そのもののよう思えた。

撮影 2016 年秋